

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	中野ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローク
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。

## 2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が動物のイラストを見せながら動物の鳴き声について問いかけました。「この動物は何か知っている?」「この動物はなんて鳴くか知っている?」子どもたちは、知っている動物の名前や鳴き声をジェスチャーを交えながら答えていました。また、英語での名称や鳴き声が流れる絵本を使用し、英語バージョンの鳴き声も覚え、楽しむ様子が見られました。

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、動物以外の擬態語や擬音語《オノマトペ》の入った英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆で一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

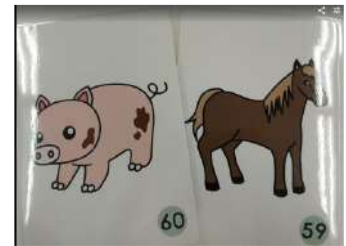
【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

- \* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"
- \* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード
- \* どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？



#### 4-①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

\* 3歳児クラス：保育者や英語講師と一緒に日本語で「ゆかいな牧場」を歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

音楽や歌詞に合わせて踊ったり、歌ったりしながら楽しんでいた。「豚はこうだよね」「七面鳥って鳥のこと？」などと保育者に尋ねたり、子ども同士で話したりする姿も見られた。英語講師と一緒にを行う前に、クラスで何度も練習をした。歌詞カードや動物のイラストを壁に貼ったこともあり、よりイメージが湧きやすかったようで曲が流れると楽しそうに歌うことができていた。

#### 4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。英語のオノマトペの絵本"Mr.Brwon can say moo!"を英語講師が読み聞かせる。 6月

\* 3歳児クラス：保育者や英語講師と一緒に英語で"Old McDonald"を歌って踊る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

音楽に合わせて講師の真似をして身体を動かしたり、英語で歌ったりしていた。日本語と英語で鳴き声異なることに気付いて不思議そうにする様子が見られた。

日本語の歌を何度か歌っていたためメロディーや動物の鳴き声を覚えており、講師と一緒に歌うことを楽しんでいた。英語と日本語で鳴き声異なることにおもしろさを感じ、講師や保育者に尋ねたり気付いたことを伝えたりしていた。



#### 5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違っている部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。動物の鳴き声を日本語と英語で比較してみたり、どのようなオノマトペがあるのか、それは日本語と英語でどのように違うのかなど、英語と日本語の違いに興味を持つ場面が増えてきた。

【次回への問い】英語のレッスンで使用しているカードをレッスンで使う場合と、自由遊びの中で同じカードを使うことで、子どもたちは英語をより発するようになるのか、またどのようにカードを使って活動するのだろうか？

#### 4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う 8月

\*3歳児クラス：レッスン中に動物のカードを使用する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

カードを見て動物の名前を英語で答えていた。英語を知らないものは日本語で答えたりなきごえを真似たりしていた。

動物の英語での名前がわからない時には、「なんだっけ?」と講師に質問し、教えてもらった名前を繰り返し発音していた。

#### 4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う） 9月

<活動の内容>②自由遊び中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う。英語で使っているカードなので、レッスンではなくても英語で言うのか。また英語講師同席の場合と、そうでない場合の遊び方にも違いが出てくるのか。英語と日本語のどうぶつなきごえを比較した後、本当の動物のなきごえを図鑑を通して皆で聴く。

\*3歳児クラス：絵カードを用いて動物の名前を言ったりなきごえを真似たりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語講師不在時には、動物を指差して日本語で名前を言ったり、子ども同士でなきごえを教え合ったりしていた。英語講師が同席している場面では、動物の名前を英語で言う児もいた。英語と日本語でなきごえが異なることに驚き「どうして?」と不思議そうにしていた。

保育者がなきごえを尋ねると「ワンワン」「ブーブー」など、知っている動物のなきごえを真似ていた。講師に英語でのなきごえを教えてもらい、日本語との違いに驚いたり不思議そうにしたりしながらも真似てなきごえを発していた。

#### 4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。 9月

\*3歳児クラス：なきごえ図鑑で本物のなきごえを聞いたり、クイズを行ったりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

なきごえを聞いて動物を予想したり、動物の写真を見てなきごえを予想したりするを楽しんでいた。

保育者が動物の写真を指さして名前やなきごえのクイズを出すとそれに答え、鳴きまねをすることを楽しんでいた。カードがなかった動物のなきごえを聞いて「〇〇に似てる」「ちょっと怖いね」と感じたことを伝え合っていた。



#### 5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】英語講師が不在の場面では日本語を使っているのに対し、講師がいる場では英語を使う児もいた。講師がいることで英語を話す時間であることを理解し、英語を話そうとしていた。日本語と英語のなきごえの違いに気づき、おもしろさを感じていた。図鑑を使用し実際的ななきごえを聞いてさらに違いがあることに気づき、驚いていた。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

#### 4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う 10月

\*3歳児クラス：乗り物の絵カード見ながら擬音語を答える。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

普通の英語のレッスンで使用している絵カードを見て、どんな音がするかを尋ねた。「自動車：ぷっぷー」「ヘリコプター：バタバタ」と予想ができる回答もあったが、「バス：プシュー（ドアの開閉音）」「ボート：ざぶーん（波の音）」など想像力豊かな回答もたくさん出てきた。保育者が褒めると嬉しそうにする様子が見られた。

4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う 11月

\*3歳児クラス：レッスン中に絵カードを使う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語講師の真似をして乗り物の単語を積極的に話す姿が見られた。知っている乗り物のカードが出てくると、大きな声で自信を持って講師に言う様子もあった。保育者に「これって○○だよな？」と話しかけることもあった。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日本語と英語の違いに戸惑っている様子も見受けられたが、「英語ではこうやって言うんだね！」と学びに繋げることが出来ていた。戸外遊び中に車や飛行機などを見つけた際に英語で話そうとしている姿もあり、身に付いているようだった。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする 12月

\*3歳児クラス：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

絵を見て擬音語や擬態語を言っていた。難しい絵が多くすぐに言葉が出てこないことがあったが、簡単なものを選択して繰り返し行うことでスムーズに擬音語が出てくるようになった。馴染みのない音を発する際には自信がない様子も見られたが、興味を持って言葉にしていた。

#### 5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

**【振り返り】** イラストから擬音に繋げることに苦戦する様子も見られたが、繰り返し行う中で、知っている単語を口に出してみようとするなど意欲的な姿が見られていた。迷った際に「これは何？」と答えを求めようとするだけでなく、「これは〇〇？やっぱり〇〇かな？」と候補を挙げて質問していた。

**【次回への問い】** イラストだけでなく、動きや音、実体験と結びつけることで、擬音の理解はどのように深まるだろうか。